



津幡南中だより

津幡町立津幡南中学校

校長 永井 隆和 Tel.288-7420

令和5年9月15日(金) 特別号

校訓

☆燃えるような情熱

☆ひたむきな純粋さ

☆たゆみない向上心

令和5年度の学力調査結果を受けて

4月に3年生は「全国学力学習状況調査」・「県基礎学力調査」、2年生は「町学力調査」を実施し、8月に結果が届きました。その結果と今後の対策についてお知らせします。

〔実施された学力テスト〕

全国学力・学習状況調査：3年〔国語・数学・英語〕

県学力調査：3年〔社会・理科〕

町学力調査：2年〔国語・社会・数学・理科・英語〕

〔学力テストの結果〕

下記表中の印(◎○□△▲)は、本校の平均正答率を、国や県の平均正答率と比較したものです。

◎・・・高い(+5ポイント以上) ○・・・やや高い(+2.0~+4.9ポイント) □・・・ほぼ同じ(-1.9~+1.9ポイント)

△・・・やや低い(-2.0~-4.9ポイント) ▲・・・低い(-5ポイント以上)

		国語	社会	数学	理科	英語	英・話すこと
3年	国との比較	○	/	◎	/	◎	□
	県との比較	□	○	□	△	○	/
2年	国との比較	○	◎	◎	◎	○	/

以上のように、学力調査結果から見た本校生徒の学習状況は、国と比べ概ね良好です。県と比較すると、県平均とほぼ同じ、またはやや高いという結果でした。問題ごと(領域や分野別)に分析した結果、課題も見つかり、今後はその対策に力を入れています。

◇教科別の傾向と対策

【国語】

- ・「知識及び技能」の面で理解度が低い分野がある。語彙力や適切に表現する技能を高めるため、授業で学習した内容を活用する場を複数設定していく。また、定期テスト等で同傾向の問題を出題し定着を図る。
- ・資料を読み込んだ上で関連する自分の知識や経験を想起しながら答える問題に対して、文章を十分整理されないまま終えている解答が見られる。書く学習活動の際に、あえて自分とは別の視点で考えさせたり、複数の条件を設けたりすることで、さまざまな表現方法を理解し活用できるようにしていく。

【社会】

- ・どの分野においても、活用題の正答率に課題が見られる。資料を読み取るスキル、他の資料と関連付けて表現する力を養うため、授業で学んだことを活用する問題を繰り返し出題し、定期的に解く必要がある。
- ・複数の資料から、ある現象の原因を考察し適切に表現する力に課題が見られる。語句の理解について、他の語句とつなげてできるように、地図帳や資料を活用した授業展開を今後も行っていく。

【数学】

- ・全体的に無解答率が大きく減少し、ねばり強く問題に取り組んだ様子が伺える。
- ・「知識」の面では、専門用語の理解が一部曖昧であること、選択問題で正誤の基準が明確でない部分があることなどの課題が見られた。ペア学習などで数学的用語を使い説明する活動を進めたり、定期テスト等で証明や説明する問題を取り入れたりすることで、知識及び技能の定着させる機会を増やしていく。

【理科】

- ・実験の条件と結果の説明や、目的に沿った実験方法の改善とその説明など、表現(説明)力に課題が見られる。できるだけ個別の考察に必要な時間を確保し、グループや全体で説明する場を多く設定していく。
- ・地学分野(地層や気象)において正確な知識が身につけていない部分がある。定期テストや復習問題を通して定着を図っていく。

【英語】

- ・日常的な話題について、読んだ内容をもとに、自分で判断し必要な情報を抽出し最適なものを選択する力、事実や考えを整理しまとまりのある英作文を書く力に課題が見られる。直訳的な読みで終わるのではなく、自分の言葉でまとめたり、第三者に伝えたりする活動を今後取り入れていく。
- ・書いたり、話したりすることに苦手意識なく取り組めるように、良い例を参考に表現できるようにしていく。